

環境触媒研究会

1. はじめに：研究会の目的

自動車等から排出される窒素酸化物、一酸化炭素、炭化水素、粒子状物質（PM）の浄化、揮発性有機物の除去、脱臭、フロン分解、水浄化、有害物質を発生しない反応プロセスなど、環境分野における触媒の役割はますます重要になってきている。

本研究会は、このような社会的要請に対して、触媒科学およびプロセス工学の立場から貢献すべく、最新の情報を交換する場を提供することを目的としている。

本研究会世話人（五十音順）：岩本正和（中央大）、永長久寛（九大）、江口浩一（京大）、大塚浩文（大阪ガス）、小倉 賢（東大）、小淵 存（産総研）、角田範義（元豊橋技科大）、薩摩 篤（名大）、清水研一（北大）、瀬川幸一（元上智大）、辰巳 敬（製品評価技術基盤機構）、田畑研二（元宮崎大）、難波哲哉（産総研）、羽田政明（名工大）、濱田秀昭（産総研）、平田裕人（トヨタ）、細川三郎（京大）、町田正人（熊本大）、御園生誠（元東大）、八尋秀典（愛媛大）、山下弘巳（大阪大）

2. 研究活動の概略、動向、展望

触媒討論会 A へのセッション参加が研究会活動の基本であるが、不定期なシンポジウムの開催および関係学会・シンポジウムへの共催を行っている。

2016 年度は、第 118 回触媒討論会（2016 年 9 月 21～23 日、岩手大学）にセッション参加（環境触媒セッション）した。発表件数は、依頼講演 1 件（日野自動車 佐藤信也様「尿素を使用しないディーゼル NO_x 浄化触媒技術の実用化」）、一般講演 23 件（昨年度 23 件）（うち登壇者所属が大学 19 件（A2 講演 2 件）（15 件）、企業 4 件（4 件））、ポスター講演 9 件（うち発表者所属が大学 6 件、企業 1 件、官 2 件）であった。昨年度までと変わらず企業からの発表が比較的多く、関係者のご配慮により使わせて頂いている広い会場を埋め尽くすほどの聴講者があり、本研究会およびセッションに対する産業界の貢献度は相変わらず高いと言える。排ガス浄化触媒に加えて、水処理触媒や環境調和型合成触媒、*operando* 解析技術に関する発表など、研究会の目的に掲げた多様な環境触媒に関する情報交換の場としての役割を担っていると思われる。引き続き、魅力あるセッションとしての立ち位置を継続してゆきたい。

また第 119 回触媒討論会（2017 年 3 月 21～22 日、首都大学東京）へのセッション参加も行う。ポスター発表のみであるが、20 件（大学 16 件、企業 2 件、官 2 件）の発表が行われる。

上記の活動に加え、元素戦略研究会との共催で「第四回元素戦略に基づいた触媒設計シンポジウム」を開催している。また自動車技術会との交流事業として、昨年度に引き続き、公開委員会「自動車排気触媒技術と触媒反応解析の最新動向」（2017 年 2 月 28 日、東京大学生産技術研究所）に共催させて頂いた。今後も継続的な交流を図っていく予定である。

海外では、9th International Conference on Environmental Catalysis（第 9 回 環境触媒国際会議）が Newcastle (Australia) で 2016 年 7 月 10～13 日の日程で開催された。日本からは、International Advisory Board Member の山下先生（阪大）、薩摩先生（名大）ほか、多数の環境触媒関連の研究者が参加された。2017 年度に第 8 回 日中環境触媒ワークショップをつくばで開催の予定である。日本、中国における環境触媒の研究動向がわかる絶好の機会であり、多くの方にご参加頂けることを期待している。

3. 世話人代表

羽田政明（名古屋工業大学 先進セラミックス研究センター）

〒507-0071 岐阜県多治見市旭ヶ丘 10-6-29

Tel: 0572-27-6811; Fax: 0572-27-6812; E-mail: haneda.masaaki@nitech.ac.jp